

協議された連携テーマ一覧

連携テーマ	連携事業名
①公共交通	(1)両市バス交通の相互乗り入れポイントの拡充 (2)両市の主要施設や観光施設を繋ぐ広域バスの導入(中長期的取組み)
②観光	(1)桐生・みどり・日光 周遊観光モニターツアー事業 (2)桐生・みどり春の花リレー事業
③防災・防犯	(1)災害時協力体制の見直し (2)青色回転灯装備車両による防犯パトロール、防犯情報メール配信
④教育・学校間連携	(1)黒保根地区(小中学校)と東地区(小中学校)との連携 (2)教師間の研修連携
⑤水資源・森林資源を活用した連携	(1)こども未来環境教室(仮) (2)森林経営管理制度の推進及び森林GISの構築 (3)林業体験イベントにおける連携
⑥スポーツに関する連携	(1)小学生ナイター陸上競技教室の共同開催 (2)ボッチャ普及(体験・交流等)事業の共同実施
⑦公共施設の相互利用	—

①公共交通

(1)両市バス交通の相互乗り入れポイントの拡充

【これまでの現状と課題】

両市で連携してバス交通の相互乗り入れなどを実施しているが、乗り入れのない買い物拠点や病院などの主要拠点への移動需要に対応できていない部分もある。



連携事業の成果

- ◆令和3年2月1日「新里町デマンドタクシー」の大間々駅・赤城駅への乗り入れ開始
- ◆令和3年2月1日「みどり市電話でバス」の新桐生駅への乗り入れ開始
- ◆令和3年4月1日「おりひめバス」の東邦病院への乗り入れ開始予定

(2)両市の主要施設や観光施設を繋ぐ広域バスの導入(中長期的取組み)

【これまでの現状と課題】

両市の主要施設を公共交通でスムーズに行き来することが困難であり、病院や買い物など生活圏を共にする両地域間の移動の利便性向上を図る必要がある。

連携事業の成果

- ◆令和元年10月から、両市及び群馬県で、両市のバス路線網など広域的な公共交通の方向性について協議を開始

②観光

(1)桐生・みどり・日光周遊観光モニターツアー事業

【これまでの現状と課題】

両市を日光観光の経由地としてPRしていくため、地域資源を活用した魅力的な広域観光ルートの構築と旅行商品化など、誘客に繋がるプロモーションの強化が必要である。

連携事業の成果

- ◆令和2年11月30日「桐生・みどり周遊観光推進協議会」を発足
(旅行エージェントや雑誌記者等を招聘するモニターツアーの実施を決定。
ただし、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、時期については今後検討。)



(2)桐生・みどり春の花リレー事業

【これまでの現状と課題】

両市において同時期に「くろほね桜まつり」と「小夜戸・大畑花桃まつり」が開催されているが、新たな魅力の創出などが必要な状況である。

連携事業の成果

- ◆令和2年4月、公共交通を含めた連携事業として開催を計画
(両まつり共通のチラシ・ポスターの作成、スタンプラリー実施など)

↳ ・新型コロナウイルスの影響で中止、桐生市内の花桃街道整備のみ実施



③防災・防犯

(1)災害時協力体制の見直し・強化

【これまでの現状と課題】

大規模災害に備えた新たな防災対策が必要となる中で、両市の「災害時における相互応援に関する協定」は平成18年3月の締結から10年以上が経過し、現実に応じた見直しが必要である。

連携事業の成果

- ◆令和3年3月23日「災害時における相互応援に関する協定」の内容を大幅に見直して締結
- ◆令和3年度を目標に「災害時受援・応援計画」の策定準備に着手予定



(2)青色回転灯装備車両による防犯パトロール、防犯情報メール配信

【これまでの現状と課題】

防犯パトロールは、関係機関と連携して両市それぞれに実施しており、限られた人員の中で効果的な実施が課題である。また、防犯情報メールは、両市とも市の関連情報を市民に配信。

連携事業の成果

- ◆令和2年1月から、青色回転灯装備車両による防犯パトロールの相互乗り入れを開始
- ◆令和元年12月から、防犯情報メールの相互配信を開始



④教育・学校間連携

(1)黒保根地区(小中学校)と東地区(小中学校)との連携

【これまでの現状と課題】

黒保根地区、東地区は、児童・生徒数が少なく、教育現場におけるデメリットがある中で、地域に開いた学校としてより効果的な魅力ある教育課程を編成する必要がある。

連携事業の成果

◆令和2年度より両地区4校の管理職による情報交換会を実施

(学校行事における交流、日常の学習活動におけるICT機器を活用したオンラインでの交流や互いの学校を訪問しての交流などについて協議。)



(2)教師間の研修連携

【これまでの現状と課題】

教育研究所等で開催する講座や講演会、授業公開等への参加は、使用施設等の関係から原則は各市内の教職員に限定している。(一部では、両市の教員の受け入れを実施している。)

連携事業の成果

◆両市の教員が参加可能な講座・研修会等は互いに案内し合うことを確認

(教育研究所、各学校、教科部会等で主催する受入れ可能な事業は、両市に案内を出し、学びの機会を増やせるよう各所に協力を依頼。)

⑤水資源及び森林資源を活用した連携

(1)こども未来環境教室(仮)

【これまでの現状と課題】

両市それぞれに「こども環境教室」を実施しているが、内容を再編し、緑と水資源の大切さを学ぶ体験型学習教室を共同開催することで、環境意識の高揚や地域の一体感醸成が期待できる。

連携事業の成果

◆共同開催に向けた両市の協議を開始

(両市の小学校高学年を対象に、夏休み期間中の実施を検討。なお、実施にあたっては、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、学校側とも協議して慎重に判断する。)



(2)森林経営管理制度の推進及び森林GISの構築

【これまでの現状と課題】

平成31年度に制度が開始された「森林経営管理制度」は、両市とも速やかに推進していく中で、市がどのように仲介して事業体等へ集約していくかなど方向性を検討中である。

連携事業の成果

◆森林経営管理制度の連携推進に向けた両市の協議を開始

◆森林GISについて両市共通で利用できるシステム構築を検討

(森林経営管理制度の基盤として活用するほか、森林・林業行政全般で連携できるプラットフォームとしての活用を目指す。)



⑤水資源及び森林資源を活用した連携

(3)林業体験イベントにおける連携

【これまでの現状と課題】

両市とも、林業就業者の増加や交流人口の増加、森林や林業への理解促進を目的とした林業体験イベント等を実施・検討する中で、事業をどのように発展させていくのかが課題である。

連携事業の成果

◆事業の連携に向けた両市の協議を開始

(みどり市でのこれまでの実施結果や、令和3年度の両市事業予定について情報を共有し、誘客・広報等での協力体制について協議。)



⑥スポーツに関する連携

(1)小学生ナイター陸上競技教室の共同開催

【これまでの現状と課題】

両市でそれぞれに市内小学生を対象としたナイター陸上競技教室を開催。桐生市では参加人数の確保、みどり市では記録会と同規模施設での事業実施ができていないことが課題となっている。

連携事業の成果

◆令和3年度の両市合同開催に向けた協議を開始

(開催時期は夏休み期間中とし、会場は改修後の桐生市陸上競技場を使用予定。)



(2)ボッチャ普及(体験・交流等)事業の共同実施

【これまでの現状と課題】

ボッチャについて、桐生市では一部の地域で実施しているが、指導者の育成が課題となっている。みどり市では香港ボッチャチームとの交流をきっかけに、共生社会ホストタウンの認可を受け、競技人口の拡充や競技者の定着を図っている状況。

連携事業の成果

◆令和3年度からの連携に向けた両市の協議を開始

◆両市でのボッチャ競技体験会、両市民の交流大会を検討

(連携により生涯スポーツの普及や地域間・世代間の交流促進を目指す。)



⑦公共施設の相互利用

【これまでの現状と課題】

両市を含む両毛広域において同条件で相互利用できる施設が多くある中で、相互利用に適さない一部の施設では、他市民の利用条件に差異が生じている。

連携事業の成果

◆公共施設の相互利用や有効活用については、生活圏を共にする両市民の利便性を考え、必要に応じて両市で協議、検討を行うことを確認

〈会議開催実績〉

会議名	開催日	会場
第1回桐生・みどり未来創生会議	令和元年 9 月 2 日	桐生市市民文化会館(美喜仁桐生文化会館)
第2回桐生・みどり未来創生会議	令和元年11月18日	みどり市役所 大間々庁舎
第3回桐生・みどり未来創生会議	令和 2年 2 月 3 日	桐生市役所 議場棟
第4回桐生・みどり未来創生会議	令和 2年 9 月28日	桐生商工会議所
第5回桐生・みどり未来創生会議	令和 3年 1 月27日	委員各所(Web会議)
第6回桐生・みどり未来創生会議	令和 3年 3 月25日	笠懸公民館